

誰でも！ いつでも！ いろいろできる

発行：PLAYTANK

2019年（令和元年）6月発行

所在地：練馬区羽沢 2-32-7

開進第四小学校ならび

時間：9時～17時（3月～9月）

9時～16時半（10月～2月）

WEB：nerima-kodomonomori.com

FB：fb.com/nerimakodomonomori



練馬区立 こどもの森

こどもりもり

練馬区立こどもの森通信

vol.26

水かけまつり

7月21日（日） 荒天延期 7月28日

持ち物：着替え！

※びしょ濡れになります。

濡れて困るものはおうちに置いてきてね。

※買った水鉄砲は大会では使えないけど、

ペットボトルなどのマイ水鉄砲は

持ってこられるよ！



夏のはじまり！

子どもも大人も関係ない！！

6月23日（日）

7月28日（日）

クギさし大会

挑戦者待ってるぜ。

13:00～練習

14:00～試合

小雨決行



今年も登場！！

いきものMAP

捕まえた生き物のマークを巨大マップに貼ろう！



運が良ければ四つ葉のクローバーが見つけれられるかも？！

草かんむりやの野イチゴジュースをつくるのもいいね。

もりもり

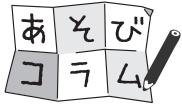
こどもの森の利用案内

- ★ こどもの森は、時間中いつ来ていつ帰っても OK。お金はかかりません。
- ★ こどもの森にある道具は自由に使えます。使い終わったら片づけてね。
- ★ おやつやお弁当を食べることもできます。ごみは持って帰ってね。
- ★ 汚れてもいい服や靴で来てね。着替えもあるといいよ。
- ★ なくなったら困る大事なものは、おうちにおいてくるか身に付けてあそんでね。



大人みなさんへ

こどもの森から保護者のみなさんへのお便りです



みんなの森。みんなの村。 つながって、できている。

こどもの森は、子ども、保護者、地域の大人たち、プレーリーダー、みんなで作っている公園です。

「こどもの森って村みたいですね」

夢中になってあそぶ子どもたちを眺めながら、あるお母さんが言いました。それを聞いて「ああそうか、村か!!」と、妙に納得。それぞれ自由気ままだけど、そこには同じ空間で過ごす者同士の思いやりがある。自分のことプラスαでその場ぜんぶをふんわりと考えている、そして、そのふんわりとした思いやりが、巡りめぐって自分に返ってくることを肌感覚で分かっている感じ。これ、そうだ、村なのかも! と。「みんなでつくるこどもの森」ってよく言っていますが、一緒に作るのは遊具などの具体的な「モノ」だけではなく、雰囲気とか文化みたいなもの、きっと作っているんだな。そう改めて感じたのでした。

他にも、来園した保護者から「こどもの森だと知らない子にも声かけられちゃうんです」という声をよく聞きます。確かに、楽しそうに話している大人と子どもが、親子でもない知り合いでもない、さっきここではじめて会ったんだ、なんてことはよく起こります。当たり前のように見ているけれど、近頃ではあまり見ない光景ですよ。そんな時、「ああ、来園者のみんなが楽しんでいい雰囲気をつくっているんだなあ」と、嬉しい気持ちになります。大人も子どももまざり合って片付けをしたり、日陰を作ったり、持ち寄った材料でイベントの準備をしたりするときには、「自分ごととしてこの場所を支えてくれているんだなあ」と感じるし、「子どもたちに」と布や材木を持ってきてくれる地域の人に出会うと、「子どもが遊ぶことへの応援団がこんなにいるんだ!」と心強くなります。

5年目を迎えたこどもの森。これからは、子どもも大人も関係なく、ここに関わる全ての人たちと、「子どもたちにどんな環境で成長して欲しい?」を考えながら、「こどもの森がこうなったら、もっと楽しい!」と一緒に形にしていきたいです。これからも、どうぞよろしくをお願いします。



こども発!

オリジナルプロジェクトあれこれ

◎こどもの森の国旗を作る!

小5男子がある日思い立ち、みんなの案を募集しようとポスターを貼りだした。彼が作った審査基準は「こどもの森がイメージできるもの」「難しくもないもの」。なるほどわかりやすい! 子どもたちから約10点の力作が集まって、どれも甲乙つけがたいぞ!



はる

◎土と木の融合作品展

募集ポスターを見た他の子がオレも何かやりたい、と「土と木の融合作品展」を企画。木と土が使われていれば、手に取れる大きさのものでも、地面から生えている木を使ってもよいという、アートコンペさながらの企画。彼のイラスト入りのポスターを見て、発想のユニークさに大人たちも唖っていた。

◎障害物競走大会

これも別の子がポスターを掲示した。どんな大会にしようかと、実際に競争しながら検討していると、その場が盛り上がりすぎて大会の趣。結果、ポスターにある日程には開催されず。でも企画を練っているその日、彼らは「もっと面白くするには?」を考え抜いていた。

◎クギ抜きキャンペーン

昨年のこどもの森商店街で「クギ抜き屋さん」というお店を出した女の子たち。お客さんがググッとクギを抜く快感でストレス発散をするという店で、けっこう繁盛していたのだが、その数週間後、彼女たちが「クギを使ったら抜こう! キャンペーン!」を実施。看板には「みんなが抜くと気持ちいいね (^v^)」のメッセージ。自分たちがクギ抜きをしたことで、普段工作コーナーにたくさんあるクギが刺さったままの材木に目が行き、これは使いづらい、という問題意識が生まれたようだ。

大人が思うゴールまでたどり着かないことも多いけど、大事なそこじゃない。自分だけの遊びを超えて「こんなことやったら面白そう」「こどもの森がこうなったらいいな」を発信し始めた子どもたち。もっとお花が欲しいから種をまきたいとか、タイヤだらけのエリアが作りたい、なんて声も上がり始めている。やっていいんだ、変えていいんだ、って思える文化がこどもの森にできつつあることに、はるはめっちゃくちゃ感動している。